

令和3年度幼保連携型認定こども園七つの星幼稚舎事業報告(案)

令和3年12月21日こども政策の新たな推進体制に関する基本方針が閣議決定された。少子化、人口減少に歯止めがかからない中、児童虐待の相談件数や不登校の増加等、子どもを取り巻く状況は深刻化、さらにコロナ禍が追い打ちをかけ、子どもや家庭へ負の影響を与えている。そこで国は、こどもまんなか社会を目指すための新たな司令塔として子ども家庭庁を創設する。(令和5年度創設予定)

こども家庭庁の政策の基本理念は、①全ての子どもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持つこと、②様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接すること、③自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態で成長し、社会で活躍していけるようにすることである。そのためには社会のあらゆる分野の人が協力しながら一体的に取り組んでいくことが重要とあるとしている。このことは、当園の教育・保育方針でもあり、又、課題でもある。子ども家庭庁の創設が待たれるところである。

コロナ禍のなかにあっても、園で過ごす子供たちの表情は明るく、元気そのものであり、虫探しに夢中になったり裏山を駆け巡ったり、自分たちが完成させた秘密基地でお弁当やおやつを食べる等、例年と全く変わらない日々を過ごした。

唯、子どもたちは環境に適応しながら自己成長を遂げているとは言え、本来であれば体験できたであろう外部との交流が激減し、すでに2年数か月に及ぶことは極めて残念なことである。

改築時からの懸案であった園舎2階の保育室の増設は、教育・保育活動を行うにあたり最善の取り組みとなった。こどもや保育教諭にとって今や、なくてはならない場所となっている。

裏山の整備も進め、安全柵を設け木製階段を設置、柿や栗、日向夏、金柑、ブルーベリー、シークワサー、ビックリグミ、南高梅等の果樹の植栽等、環境を整え遊びの場を広げた。自然の中で思う存分体を動かし、工夫してあそぶ子どもたちから、思わず漏れる、「楽しい！」という言葉がうれしい。

職員の定着については、令和3年度も4年間勤務した職員2名が結婚退職し、中途採用の職員1名が母親の介護のため福岡の実家に帰る等、リーダーの役目を果たせるまでに成長した職員の離職は多大な損失である。通勤が可能と思える距離には個人差が有り、慰留するのははなはだ困難である。

令和3年度の重点項目

(1) 幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいた教育・保育の展開

コロナ禍で制限されることもあったが、年間指導計画に基づいた教育・保育のねらいを達成できた。

(2) 学童の受け入れを園全体でサポートする。

放課後児童専門員研修を受講 2名 (清水法子 古澤堂史)

放課後児童支援員5名となる。

*利用児の大半が卒園児である事から、園庭や裏山で遊ぶ子供たちの見守りも含め、園全体でサポートする体制ができた。

(3) 人材確保の取り組みと広報の強化

新型コロナ感染症拡大により、大学訪問は断念せざるを得なかった。宮崎市保育会での就職説明会は参加法人は増えたが、参加者は減少という結果であり、ブースの訪問者も二十数名にとどまった。

9月25日(土)開催された宮崎県社会福祉協議会主催の説明会は1名のエントリーがあり就職に結びついたが、園の卒園児で保育会の説明会にも出席していた。

在学中に、就職先を決め、説明会では園の概要を聞き、施設見学で確認をするというパターンになっていると感じた。友人を誘っての入職となったことは有難い。

特別保育事業

① 延長保育事業

標準 延べ692人

短時間 延べ103人

② 一時預かり事業

延べ3,958人(幼稚園型)

130人(一般型)

③ 障害児保育事業

延べ 73人(対象児8人)

全員、診断名のついたこども達であった。園での受け入れについては限界があり入園時の年齢が低いと診断が難しいため、保護者の理解と協力を得るまでに時間を要する。「大丈夫ですよ」と保護者のためを思ってかけたつもりの一言が、不信感につながったケースもあった。こどもにとって最善の環境を考え情報提供をしても、大人の都合もあり、簡単ではない。気持ちのずれ違いが残ったままで転園となったケースもあった。

地域交流事業

① 地域や園の夏祭りでの交流

中止

② 就学前児29名学校訪問(広瀬小学校)

入学にあたり、小学校を訪問し、一年生とゲーム(おもちゃ屋さん)をして交流を図った。

地域のお年寄りとの交流(宮本・梅野地区) 中止

地域子育て支援事業

- ① 子育て支援センターを活用した子育て支援
延べ 250 人
- ② 園庭解放
延べ 108 人

資料：別添

ボランティア、就業体験受け入れ事業

- ① 保育士養成機関実習生受け入れ

福岡こども短期大学	1名	10日間	9/2(木)~9/15(水)
宮崎学園短期大学	3名	10日間	11/4(月)~11/17(水)
宮崎学園短期大学	1名	10日間	2/17(木)~3/9(水)
- ② 就業体験

宮崎学園短期大学	1名	1日間	3/4(木)
----------	----	-----	--------
- ③ 保育実習

佐土原高校1年生全員	中止
------------	----
- ③ ボランティア

放課後児童クラブ	地域の方2名	延べ229人
----------	--------	--------

コロナ禍でお断りすることも多かった。

(1) 教育・保育内容

- ① モンテッソーリ教育
- ② 音楽
 - ・和太鼓
 - ・マーチング
 - ・器楽

*外部講師（日本総合音楽研究）佐元貴之氏による指導（年4回）
- ③ 英会話
 - ・異文化体験の導入として、又、国際化に備えて外国人講師による英語教育
 - 講師：ジェイムス・エイダーン・バーン氏（アイルランド）
 - 対象：年少児・年中児・年長児 毎週火曜日1回 各年齢毎に各30分

④ 体操教室

- ・外部専任講師による体操教室

宮崎ジムナスティックスクラブ（河野智子氏・宇都宮咲樹氏）

年少児 月 2 回

年中児 月 2 回

年長児 月 4 回

⑤ お作法（茶道）

- ・毎月 1 回（年 12 回）

くじら館東西和室 「0 100」の茶室

卒園式終了後、子供たちが保護者の一人にお茶を点て、服していただいた。

我が子の成長に感動される保護者の姿があった。

⑥ 健康的な体をつくるために

- ・身体を十分に動かす機会を多く持った。

ラジオ体操＋ランニング 毎朝 9 時

鉄棒、跳び箱、雲梯、裏山で遊ぶ、散歩等

(2) 健康管理

- ・内科健康診断（春、秋各 1 回）全園児

山村善教医師

- ・歯科健康診断（春 1 回）全園児

後藤剛久 歯科医師

- ・蟻虫検査（年 2 回）

*平成 28 年度より法的には受検しなくてもよいことになっている。

- ・尿検査（年 1 回）

- ・身体計測（毎月）

- ・視診、触診（登降園時）

- ・体温測定 *全児毎日

(4) 食育

子どもの食事は、子どもの生命の保持や、健全な発達の保障にかかわる大変重要なものである。

- ・コロナ感染症対策で黙食の協力を求めた。楽しく家庭的な食事からの転換を余儀なくされた。
- ・給食計画を立て、栄養のバランスや食品選択に留意した。
- ・行事や地域の慣習を取り入れ、食文化の伝承に努めた。
- ・栽培活動や調理活動を通して、食材に触れたり、匂いを感じたり、味わったりした。
- ・食中毒の予防に留意した。

(5) 安全管理

入所児童に対する環境面での安全対策には特に配慮すると共に、児童自らが危険に対してすばやく行動できる力を、日々の保育の中で身につけることが出来るように支援した。

- ・交通安全教室 5/27 (木)
- ・防災・通報及び避難訓練 (毎月1回)
- ・不審者侵入訓練 自主訓練 (年4回)、
- ・消防署との合同訓練及び署員による講話 11/18 (木)

職員処遇

働きやすい職場環境の形成と職員の質の向上。(働き方改革)

定期の面談を主幹教諭2人と副主幹2人に依頼したが、結果を残せなかった。

認定こども園への移行とともに休暇は取得しやすくなった。

(1) 職員構成

園長1名、副園長(主任保育士)1名、主幹教諭2名 保育教諭13名、看護師1名
 短時間勤務保育教諭10名、保育助手2名 学童支援員 1名
 栄養士2名 調理員等1名 事務1名 雇用人1名 計36名
 その他 嘱託医2名 学校薬剤師1名

(2) 健康管理

定期健康診断、腸内細菌検査、O-157検査

市民の森病院・山村内科医院で健診

(3) 研修

研修は中止・延期となる。また開催された研修はリモートとなった。

(4) 福利厚生

健康診断 年 2回

職員間の親睦を深める取り組みは、そのほとんどを実行できなかった

(5) 職員会議・給食会議

定例毎月1回、その他随時開催

カリキュラム作成や指導計画、行事の検討・評価反省

気になる子供や事故・疾病、保護者の意見・相談等について協議した。

3 保護者との連携

(1) 園行事への参加は運動会、生活発表会等制限せざるを得なかった。

(2) 園だより、給食だより、クラスだよりの発行（月1回、その他適宜）

(3) 保護者会

例年、子育ての良きパートナーとして行事等を中心にご協力いただいているが、今年度は、対面での活動はほぼ出来なかった。

4 意見・要望への迅速な対応

保護者の意見・要望には迅速に対応し、内容について検証し改善した。

5 地域社会との連携

(1) 地域関係機関との協力

・中学生・高等学校生の就業体験中止や地域行事への参加が取りやめとなる中、地域の生活道路のゴミ拾いや地域の子供の見守りに協力した。

(2) 世代間交流

・ホームカミングデー

十分な感染対策をして、実行することが出来た。小学6年生15人、中学3年生6人、高校生4人の参加があった。生憎の雨であったが、給食を提供したこともあり、限られた時間の中ではあったが、会話が弾み楽しいひと時を過ごした。6年生の3人が裏山にどうしても登りたいと雨の中を登った。子どもたちにとって一番の思い出は裏山のようなようであった。

(3) 地域の子育て支援

コロナ禍で自粛を余儀なくされる期間もあったが楽しみにしている方がおり、場の提供だけでも喜んでいただけたのではないかと振り返り思う。

資料別添

6 施設整備

(1) 2階保育室増設

改築時からの計画であったが、ようやく令和3年度に果たすことができた。雨天時は勿論、日常的に利用しており、今やなくてはならない場所となっている。

(2) 園舎内外の保全

入所児が家庭と同様の雰囲気の中で快適に生活できるよう、又職員の働きやすい環境を整えるため施設整備の充実や保全に努めた。